



# Newsletter

No. 22 June 30 2016

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点



## チリ富士

日本は本格的な夏に入る頃かと思いますが、地球の裏側チリは、朝晩冷え込む季節となってきました。我々の拠点のある首都サンティアゴは冬になると光化学スモッグが発生するのですが、スモッグが晴れた天気の良い日には、雪を被ったアンデス山脈の美しい山肌が見えるようになってきました。

日本の多くの方々にとって、チリは非常に遠く、馴染のないところかもしれませんが、地震国であること、国が南北に長いこと、海・砂漠・アンデス山脈に囲まれており隣国から隔離されているところ、(他の中南米諸国に比べて)勤勉な傾向があること、など日本と似ている点が多々あります。

ところで下の写真は日本人なら誰もが富士山かと勘違いするのではないのでしょうか？実は、チリの南部にあるオソルノ山です。オソルノ山は典型的な円錐型をした成層火山で、姿や形が日本の富士山と似ているため日本人の間では「チリ富士」と呼ばれることがあります。

意外にも日本と似た点を多く持つチリに対して、日本の方々にも少しでも興味を持っていただければと思う次第です。

本号では、ジョイント・ディグリープログラム(JDP)、大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の進捗情報を中心に、LACRCの活動をお伝えしていきます。

小田柿智之 LACRC 消化器病態学分野



オソルノ山 (参照:#04300 FREE DESKTOP WALLPAPER - Volcán Osorno, Chile)

**LACRC** TMDU IN CHILE  
Latin American Collaborative Research Center  
Santiago de Chile



## Contents

ご挨拶 .....	1
JDプログラム .....	2
PRENECの進捗状況.....	4
活動報告 .....	7

# ジョイント・ディグリープログラム

今年4月から本学の大学院医歯学総合研究科博士課程にチリ大学とのジョイント・ディグリー・プログラムである国際連携医学系専攻が開講いたしました。本専攻第一期生となる学生が入学したことで、本学及びチリ大学教職員がより一層連携を密にし、プログラムの発展に向け取り組んでおります。本号では改めて本専攻の概要や毎月行っている本学・チリ大学合同の学術委員会(テレビ会議)について紹介いたします。

また次号のニュースレターにて、学生指導や今後の両大学の発展に向けた活動状況等を報告してまいります。

## 国際連携医学系専攻のカリキュラム概要

本専攻は上部消化管外科学、大腸肛門外科学、胃腸病内科学の3領域でコースを開設しております。また入学資格により修了までのスケジュールが異なりますが、それは指導教員が個々の学生の経験や能力、そして研究内容に合わせた履修科目や研究手法を提案するためであり、他専攻よりもフレキシブルなカリキュラム編成となっています。

本学、チリ大学及びクリニカ・ラス・コンデスとの連携のもと、グローバルな視点から医療・研究を捉えることができるリーダーを育成することを目的としております。

【チリ国医師資格を持つ学生】

UCh	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		
	1seme	2seme	3seme	4seme	5seme	6seme	7seme	8seme	9seme	10seme	
PhD (合同で授与)	一般教養科目 基礎科目	基礎研究演習 上級科目	文献ゼミナール 臨床研究演習	論文案	進級試験	特別研究(論文)				学位論文審査	最終審査
Subspecialty (チリ大学が単独で授与)	臨床(基礎・応用)						臨床応用	臨床(基礎・応用)		試験	
滞在国	チリ						日本			チリ	

【日本国医師資格を持つ学生】

TMDU	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		
	1seme	2seme	3seme	4seme	5seme	6seme	7seme	8seme	9seme	10seme	
PhD (合同で授与)	一般教養科目 基礎科目	基礎研究演習 上級科目	文献ゼミナール 臨床研究演習	論文案	進級試験	特別研究(論文)				学位論文審査	最終審査
専門医 (日本専門医機構に申請)						臨床(基礎・応用)				専門医申請	
滞在国	チリ						日本				

□はTMDUが開設する授業科目

本学・チリ大学とのJDPカリキュラム構成

### 【参考】

- チリ国医師資格を持つ学生:学位及びチリ国における専門医資格が5年で取得できる構成となっており、4年次に日本で修学することとなっています。
- 日本国医師資格を持つ学生:学位取得をした後に、専攻コースに応じた専門医資格を取得するために、日本における専門医資格を認定する機関に申請することが可能となります。また入学初年度から2年次まではチリで講義を受講し、3年次に日本に帰国した後、本格的に論文作成や臨床科目の授業が始まります。

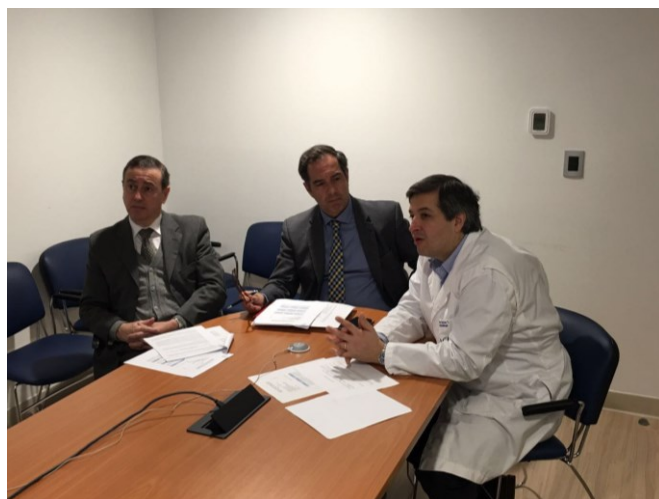
## チリ大学・東京医科歯科大学学術委員会(テレビ会議)

本学及びチリ大学の教員で構成している「学術委員会」は毎月1回テレビ会議システムを使用して開催しています。本会議は、東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻における教育・研究活動や管理・運営方法について両大学が協議する場となっています。また、毎月開催することにより、学生の修学状況や運営に関する細かな事項まで確認することができ、本専攻の運営において大変重要な役割を担っています。

本年6月14日に開催された会議においては来年度の試験日程や学生の修学状況について確認するなど、様々な準備を進めております。学生が充実した学生生活を送れるよう、本学術委員会が責任を持って引き続き管理・運営を行います。



会議の様子(日本側)



会議の様子(チリ側)

※2016年6月14日(火)日本時間20時30分～ チリ時間7時30分～

# PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴの3都市において免疫学的便潜血反応検査(iFOBT)を用いた検診プログラムが進行しております。本年5月、第3州バジェナール市が正式にPRENEC参加の協定を結びました。この都市に加え既に調印を交わしているサン・ホセ病院(オソルノ市)とバルディビア病院(バルディビア市)の参加の見込まれている3都市の各病院を対象にPRENEC導入に向けた具体的な手続きを含む講習会が開催されました。本号ではその様子をお伝えしていきます。

## PRENECの進捗報告

- 稼働中
- 調印済・講習会参加済
- 調印済み
- 参加予定



## バジェナール市PRENECへの正式参加



ウワスコ病院のスタッフとロペス医師ら



ウワスコ病院外観

バジェナール市はチリ北部アタカマ州(第3州)に位置した人口約52,000人の農業と鉱山が主な特徴の地域です。

本年5月にロペス医師等がウワスコ病院を訪れ、正式にPRENEC参加の協定を締結しました。

ウワスコ病院はプロジェクトに強い関心を持っていることからプロセスが通常より早く進み協定の締結とほぼ同時にPRENEC講習会への参加が決定しました。

## PRENEC講習会開催

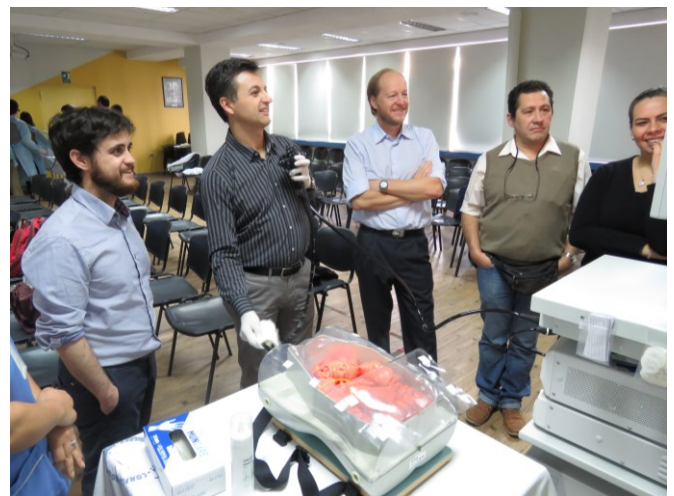
本年5月9・10日の2日間にわたって、サン・ホセ病院(オソルノ市)とバルディビア病院(バルディビア市)、ウワスコ病院(バジェナール市)の医療スタッフ(内視鏡医、病理医、看護師等)を対象にPRENEC開始の為の講習会が開かれました。

本講習会では新規参加に必要な設備や運営方法、便潜血検査、データの取り扱いなどに関する説明の他、実際に今までに起きた問題点に関する意見交換などが行われました。小田柿助教からは、「PRENEC研修医師への指導方法」及び「質の高い内視鏡治療をするために用意すべき処置具」についての講演、「コロンモデルを使用した内視鏡指導」のデモンストレーションが行われました。

本講習会がPRENECの新規拠点の開始に向けての一助となる事を期待しております。



講習会参加者と記念撮影



サン・ボルハ病院にてコロンモデルを使用した講習

## PRENEC論文がチリ消化器病学会誌へ掲載



Gastroenterología Latinoamericana誌表紙より

LACRC開設当初から伊藤崇助教と後任の河内洋講師によって進められていたPRENEC病理分野に関するスペイン語論文「Standardized protocol of Anatomic Pathology of early lesions in Colorectal Cancer Prevention Project (PRENEC)」がチリ消化器病学会誌であるGastroenterología Latinoamericana誌へ本年3月に掲載されました(Ito T, Kawachi H, Peñaloza P, et al. Gastroenterol Latinoam 2016;27:37-46)。この論文はPRENECにおける病理医の役割から病理標本の取り扱い・診断分類などのプロトコルを詳細に解説したガイドライン的内容になっています。従来大腸病変の病理診断においては欧米式が主流であったチリにおいて、伊藤助教、河内講師は日本式の普及に努めて来ましたが、この度PRENECプロトコルがスペイン語による論文として出版されたことの意義は大変大きく、チリ国内における質の高い大腸癌検診の普及が加速することが期待されるとともに、スペイン語を母国語とする他の中南米諸国へのアピールとしても重要な意義を持つものです。

雑誌Gastroenterología Latinoamericana

掲載内容URL (<http://gastrolat.org/gastro-1-2016/#/14/>)

## プンタ・アレナス出張

PRENEC基幹病院であるマガジャネス病院の要請にて現地での対応が困難な症例の大腸内視鏡治療、及び、現地医師への技術指導目的で、小田柿助教が同院へ出張しました。滞在最終日にはロベス医師等とともに講演会に参加し、「PRENECにおける大腸腫瘍に対する内視鏡治療」の講演をしました。また、現地の新聞に本講習会の様子が掲載されました(写真右)。



マガジャネス病院のスタッフらと小田柿助教



Permite detectar precozmente el cáncer de colon

**Programa preventivo de colon y recto ha beneficiado a más de 7 mil usuarios de Fonasa**

“7000人以上の公的保険Fonasa被保険者が大腸直腸癌検診プログラムを利用”

新聞ラ・プレンサ・アウストラル2016年6月12日付

# LACRC活動報告

## 国際シンポジウムENDOSURへの参加

2年に1度開催されている国際シンポジウム「ENDOSUR」が本年3月30日から4月1日までの3日間にわたってサンティアゴにて開催されました。今回も南米医師にとどまらず米国、イタリア、韓国の医師等が演者として参加し、消化管疾患に関する講演や最新の研究発表を行いました。LACRCからは小田柿助教が参加し、「早期大腸癌の内視鏡的治療」に関する講演、及び、「ESDハンズオン」にて実技指導を行いました。また、本シンポジウムではPRENECに関するワークショップも開催されました。小田柿助教は「PRENEC研修医師に対する大腸内視鏡トレーニング方法」に関しての発表を行い、他国の参加者からも高い関心が寄せられました。



パネルディスカッションの様子



韓国からの演者Seon-Hahn Kim医師とともに記念撮影



ENDOSUR理事のナバレッテ医師とハンズオンの様子



パラグアイからの参加者オビエド医師(写真右)との記念撮影

## 内視鏡講習会

本年6月23-25日の3日間、南米の医師を対象にした内視鏡ワークショップがCLCにて開催されました。

チリ人医師に加えてLACRCからは小田柿助教が演者として招かれ、「上部消化管の観察法」に関する発表を行いました。

本ワークショップは、チリ人医師のみならず、他国（コロンビア、アルゼンチン）の医師も参加しており、知識・技術の習得のため、熱心に取り組んでいました。



発表を行う小田柿助教とCLCのルーベル医師



実技指導の様子



講習会参加者の集合写真

### 編集後記

チリ政府は昨年1月よりサマータイム制(夏時間・冬時間の変更)を廃止しましたが、廃止の結果、冬季の短い日照時間による安全面が懸念された為、本年5月より期間限定で元のサマータイム制に戻しました。日本との時差は冬時間は12時間から13時間へ変更され、これにより本号でお伝えしたテレビ会議ではチリの早朝、日本の遅い時間からの開始となり双方に多少なりとも影響が出ています。

今後も本Newsletterを通してLACRCの活動を報告してまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点  
Latin American Collaborative Research Center  
Newsletter No. 22, June 2016

[発行日] 2016年6月30日  
[制作] Latin American Collaborative Research Center  
Tokyo Medical & Dental University  
Clínica Las Condes  
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile  
Tel: (56-2) 2610 3780  
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp